



緑陰通信

～県立図書館に行こう～

News from the shade of trees

【連絡先】
宮崎県立図書館
総務・企画課
Tel: 0985-29-2956

- 「伊藤一彦県立図書館名誉館長特別寄稿（第1回）」
「夕日に心をうばわれる」・・・P2
- 「かば先生コーナーが開設しました！」
「子育て相談おはなし会」やっています！
・・・P3
- 図書館で映画館気分を味わいませんか？
図書館でコンサート♪
・・・P4
- 移動図書館車「やまびこ」があなたの町に！
子どものための「みやざきの言の葉」講座
・・・P5
- 郷土の文化を学んでみよう！
・・・P6
- 新着図書案内
・・・P7
- 使って便利！図書館サービス
・・・P8



〈県立図書館名誉館長就任記念講演会（5/26）〉



〈「かば先生コーナー」開設式（4/29）〉



〈平成25年度特別展「宮崎県誕生」〉

「ふるさと宮崎を学びませんか」
置県130年記念「宮崎の魅力実感！ 美・図・博 3館見学ツアー 募集中！」
（お問い合わせ） 宮崎県総合博物館 総務課 TEL0985-24-2071

「伊藤一彦県立図書館名誉館長 特別寄稿（第1回）」

「夕日に心をうばわれる」

県立図書館名誉館長 伊藤 一彦

宮崎県を訪れた文学者は多い。最近出版の渡辺綱纜氏の『夕日に魅せられた川端康成と日向路』は、川端康成の昭和三十九年の来宮を詳しく記していて興味深い。宮崎空港に夕がた着いてタクシーで宮崎市内のホテルにむかう途中、川端康成は車を止めさせ西の方を見て「こんなに美しい夕日は、初めてです。素晴らしいですね。本当に素晴らしい」と自分に言い聞かせるように賛嘆したという。ノーベル文学賞を数年後に受賞した、たぐい稀な豊かで鋭い感性の作家がそう呟いたというのである。晴れてさえいればそんな夕日を宮崎の私たちはいつでも見ることができる。ありがたく、うれしいことである。

夕日といえば、私はヴィクトール・E・フランクルの『夜と霧』の一節を思い出す（この本については去る5月26日の図書館の講演でも触れた）。言うまでもなく、フランクルは第二次世界大戦中に強制収容所での生活を強いられた心理学者である。フランクルは苛酷な収容所生活のなかで「繊細な被収容者のほうが、粗野な人びとよりも収容所生活によく耐えたという逆説」を語っている。常識的には繊細な人の方が精神にダメージを受けて絶望に追いこまれやすいという考えだろうが、そうでないと言うのである。フランクルの描いている一場面を引用する。

あるいはまた、ある夕べ、わたしたちが労働で死ぬほど疲れて、スープの椀を手に、居住棟のむき出しの土の床にへたりこんでいたときに、突然、仲間がとびこんで、疲れていようが寒かろうが、とにかく点呼場に出てこい、と急きたてた。太陽が沈んでいくさまを見逃せまいという、ただそれだけのために。

そしてわたしたちは、暗く燃えあがる雲におおわれた西の空をながめ、地平線いっぱい、鉄色から血のように輝く赤まで、この世のものとも思えない色合いでたえずさまざまに幻想的な形を変えていく雲をながめた。その下には、それとは対照的に、収容所の殺伐とした灰色の棟の群れとぬかるんだ点呼場が広がり、水たまりは燃えるような天空を映していた。

「世界はどうしてこんなに美しいんだ！」

（池田香代子訳）

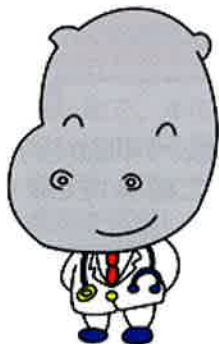
長い引用になったが、ぜひ引きたかった。死の収容所で夕日を見て「世界はどうしてこんなに美しいんだ！」と感動した「繊細な」人びとが苛酷な生活によく耐えて生きのびることができたとフランクルは自らの体験から語っている。

「世界はどうしてこんなに美しいんだ！」と思わず叫ばせるような夕日あるいは朝日に「心を奪われ」る「繊細」な感性の私たちでありたい。そんな感性は現実の生活と無関係と主張する人があれば、フランクルの本を読んでみられるといいと思う。



【県立図書館名誉館長就任記念講演会（5/26）】

「かば先生コーナーが開設しました！」



「かば先生」のニックネームで慕われ、昨年お亡くなりになられた、宮崎市の佐藤雄一先生のご家族から、今後10年間で3,000冊の児童書を寄贈していただくこととなり、4月29日、県立図書館児童図書室と移動図書館車「やまびこ」に「かば先生コーナー」を開設し、「かば先生文庫」の閲覧・貸し出しを始めました。

4月29日の開設式では、「かば先生コーナー」の除幕式や、アナウンサーの高橋巨典氏による「かば先生文庫」の絵本の読み聞かせを行いました。「かば先生文庫」は、さまざまなジャンルの児童書がそろっており、多くの方に楽しんでいただけるよう工夫されています。

中には、凸凹がついていて、触ることで絵を感じることでできる点字絵本や、羽や毛糸など、紙とは違う材料が使われた部分があり、手触りの違いを感じることでできるさわる絵本もあります。

また、大型絵本や、これまで貸し出しをしていなかった図鑑も「かば先生文庫」の中から、借りることができるようになりました。

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける過程で欠くことのできないものです。

これを機会に、ご家族そろってたくさんの本に親しんでいただけたらと考えています。



【児童図書館内かば先生コーナー】

「子育て相談おはなし会」やっています！

宮崎県立図書館と宮崎県看護協会が連携して行っている「子育て相談おはなし会」をご存知ですか？

子育て中のお父さんお母さんが、いろいろな人の話を聞くことで、子育ての不安を解消し、親子共に楽しく過ごせるよう、県立図書館と県看護協会がそのお手伝いをしています。

今年度1回目の「子育て相談おはなし会」が、6月4日に開催されました。県立図書館の司書による絵本の読み聞かせでは、たくさんの赤ちゃんたちも真剣に耳を傾けてくれました。

この読み聞かせの後のグループ相談では、経験豊富な助産師さんや先輩お母さんたちのアドバイスが受けられます。また個別相談会では、日頃なかなか病院に行くことのできないお母さん自身の健康相談や、保健指導・栄養相談など、いろいろなお悩みに県看護協会の助産師さんが答えてくださいます。

今年度は、6月4日、7月2日、8月6日、9月3日、10月1日、12月3日、平成26年1月7日、3月4日の計8回開催します。

肩の力を抜いたところで、育児についての悩み事を相談してみませんか？

もちろん、お父さんたちの参加もお待ちしております。

事前のお申し込みは不要です。どなたでもお気軽にご参加ください。

1. 日 時 毎月第1火曜日 14:00～16:30
2. 相談員 社団法人宮崎県看護協会 助産師
3. 場 所 児童図書室奥 おはなしのへや
4. 対 象 おはなし会に参加の子育て中の方々
5. 参加費 無料
6. 内 容 ①おはなし会 (14:00～14:30)
②グループ相談会 (14:30～15:00)
③個別相談会 (15:00～16:30)
※個別相談は希望者のみ

【相談内容】

保健指導、栄養相談、育児相談、保護者の健康相談、その他



図書館で映画館気分を味わいませんか？

シアター・映写会の案内（7月～12月）

図書館では様々な催しを行っていますが、視聴覚事業として毎月映画の上映を行っています。また、今年度から子ども映写会はシアターと同日に開催しています。今回はこれからの上映作品（12月までの分）についてご案内いたします。

	子ども映写会(午前10時開始)	図書館シアター(午後1時30分開始)
7月6日(土)	「学校の怪談 恐怖の学校編」 「あっちゃんのはたけ」「きいちゃんのひまわり」	「4分間のピアニスト」〈ドイツ〉
7月26日(金)		「MAZE」(日本)
8月3日(土)	「学校の怪談 戦慄の校外編」 「世界のカプトムシ・クワガタムシ大図鑑」	「フランケンシュタイン」「キッド」〈アメリカ〉
8月23日(金)		「氷雪の門」〈日本〉
9月15日(日)	「ピーターパン」	「1911」〈中国・香港〉
10月12日(土)	「四季の民話 まんまん昔の花咲いた 秋の巻」 「14ひきのあきまつり」	「ヴェニス商人」〈日本〉
11月10日(日)	「もも子 かえるの歌がきこえるよ。」	「おじいさんと草原の小学校」〈イギリス〉
11月29日(金)		「風光る剣―八獄党秘聞―」〈日本〉
12月14日(土)	「ふしぎの国のアリス」	「素晴らしき哉、人生!」〈アメリカ〉



シアター・映写会は全て無料です。
事前申込みも必要ありません。
図書館2階の視聴覚室へお越しください！



図書館でコンサート♪

県立図書館では年3回『緑陰コンサート』を開催しています。第1回目の緑陰コンサートは5月3日に県立図書館の南玄関の楠の木陰で行いました。今回は「子どもの読書週間」の行事の一つとして、大淀小学校吹奏楽部の皆さんの演奏とNHKの金子アナウンサー、宮崎キャスターによる絵本の朗読が行われました。

大淀小学校の皆さんの演奏は多彩なレパートリーで楽しませていただきました。「バラの謝肉祭」「アンパンマンのマーチ」「ウォーターメロンマン」「宝島」などなど…。「演歌メドレー」では御来場いただいた方々が歌を口ずさむ光景も見られ、一体感が感じられるものとなりました。

絵本の朗読では、椅子に座って聞いていた子どもたちが次々と観客席前のブルーシートへと集まり、絵本の世界へ引き込まれていました。特に3冊目の落語「みそ豆」は手話つきだったこともあり、子どもたちは身を乗り出すように、そして笑顔で聞いていました。

御来場の皆様、大淀小学校吹奏楽部の皆さん、NHKの金子アナウンサー、宮崎キャスター、本当にありがとうございました。

緑陰コンサート第2回は10月20日(日)、第3回は12月22日(日)に開催予定です。是非お越しください。



移動図書館車「やまびこ」があなたの町に！

県立図書館には移動図書館車「やまびこ」があります。移動図書館車とは図書館から離れたところに住んでいる人や、子どもたちに読書の場を提供するために本棚を備えた車で、本の貸出サービスを行う「動く図書館」のことです。県立図書館では、市町村における読書普及活動及び読書環境整備を支援し、県全体の均衡ある読書環境整備を図ることを目的として、県内の小・中学校や特別支援学校、市町村立図書館・図書室を巡回しています。

「やまびこ」は昭和29年、テレビのない時代に心の糧となる文学書・教養書や産業技術に関する図書を運び、人々の読書意欲を充たすことを目的に始めました。その頃は、公民館などにも行き、夜はレコードコンサートや映写会、読書座談会、子どものための紙芝居などの文化的活動を行い、人々は訪問を心待ちにしていたそうです。現在は、6代目の「やまびこ」が運行しており、約3,000冊の図書とともに県内を年間約100日巡回し、図書の貸出を行っています。

また、あまり知られていませんが、「やまびこ」に乗せていく図書は一般閲覧用の書庫とは別のBM (Book Mobile) 書庫にあり、そこは「やまびこ」や「市町村立図書館・図書室」「読み聞かせ団体」など団体貸出専用となっており、約5万冊の蔵書があります。この中から、各学校や図館図書室等の要望を受けて、「やまびこ」に図書を乗せて行きます。

学校の長期休業中以外はほぼ県内各地を走っている「やまびこ」。

「やまびこ」が運んだ図書をぜひ手にとってみてください。



【初代「やまびこ」】



【6代目「やまびこ」
目印は車体横の「はっぴくん」】



【車内の様子
子どもたちなら10人は乗れます】

子どものための「みやざきの言の葉」講座

本県は言語文化の宝庫であり、県立図書館では、宮崎に伝わる神話・伝承等、本県の価値ある言語文化を県民総ぐるみで次世代に語り継ぐ活動を推進しています。平成23年度にスタートし、3年目を迎えるこの講座も、今年度は、会場を県立図書館から西都市公民館に移しての開催となりました。

対象は、小学校3年生以上で、宮崎に伝わる神話・伝承等を学びたいと思う方ならどなたでも参加できます。

この講座により、宮崎に伝わる言語文化が継承され、子どもたちはもちろんのこと、広く県民の皆様にも“ふるさと宮崎”に対する理解を深めていただき、郷土を愛し、郷土の文化に誇りをもっといただく機会にしたいと考えています。たくさんの皆様の御参加をお待ちしています。

〈子どものための「みやざきの言の葉」講座 全4回〉

平成25年7月23日(火) 「みやざきの神話・伝承を学ぼう」

講師：岡田勝運氏、宇都裕子氏

(宮崎市神話・観光ガイドボランティア)

7月30日(火) 「みやざきの文学を学ぼう」

講師：伊藤一彦氏 (宮崎県立図書館名誉館長)

8月6日(火) 「みやざきの民話を学ぼう」

講師：林 都子氏、石崎芳行氏 (さどわら語りの会)

8月20日(火) 「みやざきの歌や言葉を学ぼう」

講師：綾部正哉氏 (椎葉綾心塾塾長)



【昨年度の講座の様子】

会場：西都市公民館2階 会議室

※いずれも定員は50名。時間は14:00~16:00です。1回のみ受講も可能です。

※申込方法等、詳細につきましては県立図書館のホームページをご覧ください。

郷土の文化を学んでみよう！



県立図書館では、県民の方々の生涯学習の場として、また同時に、宮崎県の歴史・文化について認識を深める講座が用意されています。宮崎県文化講座と古文書解読講座はその代表的なものです。ここでは、その内容について触れます。

～宮崎県文化講座～

宮崎県には後世に伝えていくべき固有の歴史や自然、また文化が豊富にあります。県立図書館で開催される宮崎県文化講座は、様々な分野で活躍されている県内外の方々に講師として招聘し、講演を行うことにより、県民の方々が郷土の歴史や文化に誇りを持つとともに、生きる力を醸成する場として、生涯学習の機会を提供するものです。

先日（5月11日）は、日向学院高校の竹村茂紀さんを講師としてお招きして、本年度1回目の講座を実施しました。演題は「宮崎県再置と県内教育の展開」で、宮崎県が鹿児島県より分離独立して130年目の節目の年であることから、それに絡めて近代の学校教育の展開について講義をしていただきました。

次回講座は、7月13日（土）に予定されており、「発掘された火起こしの歴史と文化」と題し、県立西都原考古博物館の藤木聡さんが、宮崎県内・国外の発掘成果を紹介しながら、人類進化の原動力である火起こしの歴史を、絵本「カチカチ山」の話等も交えながら紹介する予定です。

8月以降にも第3、第4回目の講座が予定されており、講師の先生方が宮崎の新たな文化を県民の皆様に紹介していきます。是非、御期待ください。



【第1回講座の様子 5/11】

～古文書解読講座～

古文書というと、なにか難しいものとの印象を与えてしまいがちですが、宮崎県における先人の足跡や生活全般を伝える近世史料は、私たちの次の世代に伝えるべき重要な文化遺産です。

今年度も、恒例の古文書解読講座は、5月30日（木）に基礎講座が開かれ、県内の歴史ファンを中心に36名の参加者があり、会場の2階視聴覚室には熱気にあふれた雰囲気がありました。

古文書解読講座は、歴史や古文書に興味のある県民の方々を対象として、県立図書館所蔵の近世史料を中心にテキストを準備し、古文書の解読技術を伝授すると同時に、その内容に関する歴史的背景を説明することで、郷土の歴史に対する認識を深めてもらうことを目的としています。また、今後の県内における郷土史の調査研究に携わる人材の育成も目指しています。

講座は、受講者の方の習熟度に応じて、【基礎講座】、【中級講座】、【上級講座】の3段階が用意されており、修了者の方には受講証を交付しています。なお、現在【基礎講座】は終了しましたが、今後、【中級講座】、【上級講座】も予定されております。ふるって御参加をお願いいたします。



【初級講座の様子 5/30】

新着図書案内

■ 宮崎県立図書館ホームページで新着図書が検索できます

宮崎県立図書館では、毎週 100 冊前後の新刊本を購入しています。その他、利用者の方からのリクエスト、これまで継続して購入しているシリーズ本や年鑑など、毎日のように新しい本が入荷しています。

図書館に所蔵している本は、当館ホームページで検索することができます。特に、新着図書については、ホームページの「新着図書」→「新着資料一覧」から調べることができます。

https://www.lib.pref.miyazaki.lg.jp/cgi-bin/Sopcssin.sh?p_mode=1&list_cnt=10

お探しの本がない場合は、利用者の方からリクエストを受け付けています。ただし、当館収集方針に基づき選書していますので、全てのリクエストにお応えできるわけではありません。ご了承ください。

また、相互貸借サービスでは、当館に所蔵していない本を県内外の図書館から借りることもできます。



■ こんな本が入りました

当館では、宮崎県のこと書かれた本、県内出身の作家の本を積極的に収集しています。今回、新しく購入した郷土の本を 4 冊紹介したいと思います。

『新編 日向路の山頭火』 山口保明 著 (鉦脈社)

内容紹介：生き難き時代のいま、あらためて脚光を浴びる放浪の俳人・山頭火。二度にわたる日向路の旅の、二回目の昭和 5 年の旅日記の名句観賞を軸に、日向路の山頭火の心境を解説する。名句に添えた版画がいつそう旅愁をそそる。

『山口俊郎の仕事集成 第 2 巻』 山口俊郎 著・山口俊郎の仕事刊行委員会 編 (鉦脈社)

内容紹介：宮崎日日新聞文化部長・報道部長としての文化フォーラムの開催とそこでの発言、論説委員・委員長として執筆した「社説」「地論民論」と「くろしお」選を集録。宮崎の転換期を明らかにする。



『75年目のラブレター』 貴島テル子 著 (朝日新聞出版)

内容紹介：南の海に散った海軍パイロットの夫とのたった 75 日間の結婚生活。残された 150 通の「ラブレター」を心のよすがに、医師を目指し精進した戦後の長き日々。96 歳で今も現役小児科医として活躍する著者から、いまを懸命に生きる人々へのメッセージ。

『写真集 昭和天皇巡幸』 前坂俊之 編 (河出書房新社)

内容紹介：「象徴天皇」像を国内外に大きくアピールされ、国民を激励し、焦土から復興への希望を与えた「全国巡幸」。足掛け 6 年・約 3 万キロにわたる交歓風景をおさめた昭和の記録。

■ 閲覧室に新着図書コーナーを設置しています



閲覧室の入り口近くに「新着図書コーナー」を設置しています。このコーナーには、青少年向きの本、子育てや介護のような生活に密着した本、新聞やニュース等のメディアで話題の本などが展示されており、担当職員が様子を見ながら随時入れ替えを行っています。「こんな本もあるのか」「おもしろそうな本だな」と、思わず手に取ってみたいくなる本がたくさん並んでいます。図書館に来られた際には、ぜひ足を止めてご覧になってください。



使って便利！図書館サービス

■レファレンスサービス

資料をお探しのとき、何かを調べたいときは、一般閲覧室4番カウンターを御利用ください。図書館員が本の紹介や情報提供等を行っています。

例えば・・・「宮崎の郷土料理の作り方を知りたい」、「宮崎県の方について調べたい」、「自社製品のPRに参考となる情報がほしい」、「過去の災害の記録を読みたい」・・・など。

電話、FAX、電子メール等でも受け付けています。どうぞ御利用ください。

(Tel :0985-29-2596)

■複写サービスについて

著作権法では、著作権者の許可なく、資料を複写することができません。しかし、図書館では、次の条件を全て満たす場合に限り複写が可能です。(著作権法第31条)

- ①図書館の資料であること
- ②調査研究のためであること
- ③著作物の一部分(半分以下)であること
- ④利用者1人につき、1部であること

料金は次のとおりです。

白黒は1枚10円、カラーは1枚50円、マイクロフィルムの複写は1枚50円です。

なお、事前に申込みが必要ですので、ご希望の方は3番カウンターで申込用紙を記入してください。

■見学・職場体験・司書講習について

学校や子どもたちの学習を支援するために見学、職場体験学習、司書実習、インターンシップ等の受入を積極的に行っています。書庫など普段入れない施設等の見学や読み聞かせにも対応します。

人数が多い場合は、グループ分けや時間帯を調整していただく場合がありますので、御了承ください。

受け入れについては申込順となります。利用を希望される場合は2週間前までに申込みをしてください。

(Tel :0985-29-2956)

【県立図書館見学のプログラム例】

- 館内施設見学
(ふだん県民の皆さんが立ち入れない場所も御案内します)
- 図書館の機能や施設・設備、蔵書数等の詳しい説明
- 県立図書館の便利な利用の仕方の説明
- 学校での調べ学習に関する支援

■「おはなし会」について

児童図書室では、図書館員とボランティアの皆さんが、子どもたちに、絵本の読み聞かせ・おはなし(ストーリーテリング)を行う「おはなしのへや」を開いています。毎月第4火曜日には、NHKアナウンサーも読み聞かせを行います。

毎週火曜日 14時～14時30分 (祝日は行いません)
毎週水曜日 15時～15時30分
毎週土曜日 15時～15時30分 幼児向け
15時30分～16時 小学生向け

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00
(日曜・祝日は9:00～17:00)
■児童図書室：9:00～17:00
休館日 ■毎週月曜日(祝日の場合翌日火曜)
年未年始 12/29～1/4
特別整理期間 2/3～2/10

編集・発行

● 宮崎県立図書館

住 所 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
T E L ■0985-29-2911 (総務・企画課総務担当)
F A X ■0985-29-2491 (総務・企画課総務担当)
HPアドレス ■<http://www.lib.pref.miyazaki.lg.jp>
携帯アドレス ■http://www.lib.pref.miyazaki.lg.jp/i_index.htm



お気軽にご相談
ください!



県立図書館の資料の
購入には、
宝くじの収益金の一
部が使われています。

宮崎県



【児童室見学の様子】



【おはなし会の様子】